



理工学部講演会：先進エネルギーナノ工学科

## 北村晏一先生 講演会

日時：2016年10月12日(水) 15:10-16:40

会場：Ⅶ号館1階 111教室

### 電気自動車について 大切な事実の直視、現実の甘受

#### 【ご講演概要】

日本におけるEVの歴史は、1900年頃に初めてEVがアメリカから輸入され、初めて国内でEVが試作された1910年頃に始まり、100年余りが過ぎました。

日本においては約20年毎に、その時々時代の背景によってEVのエポックが到来していますが、普及面ではなかなか思うようには進んできておりません。

EVの必要性は、今日ではもはや誰もが認めるところだと思えます。ただ、残念なことにEVは航続距離の短さという大きなハンディを背負っています。EVの普及を考えると、最も考えなくてはならない点はやはりそこにあると思えます。

EVは一度乗ってみると、環境面、エネルギー面というより以上に、その乗り物としての加速感、静かさ、機敏さ等々、技術者であればすぐに惚れ込んでしまう優れた特性を持っています。

航続距離さえ何とかすればEVの普及は間違いないと考えるのは当然のことではあります。

しかし、今一度原点に立ち戻っての冷静な判断が必要だと思えます。

#### 【ご略歴】 (元) ダイハツ工業(株) 電気自動車事業部長

ダイハツへの1972年の入社以来、45年間に渡りEV開発を企画・開発・販売・アフターサービスの全分野で牽引。

現在も電気自動車の開発に関するアドバイザーとして幅広くご活躍。

\*\*\*\*\* 講演企画担当からPR \*\*\*\*\*

目からウロコのご講演です。プリウスが発売されるまで日本の電動車両の8割はダイハツ製でした。その全てを手掛けてこられた北村さんであり、ここからEVを愛されているからこそ、的を射た「EVのあるべき姿」をお話しいたします。

エネルギー・モビリティ社会を考えるきっかけとなることを願い、総合政策部・理工学部諸氏のご参加をお待ちしています。先進 田中裕久